

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器基礎知識-A	授業形態 / 必・選	講義	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年次	1年次	
	年間授業数	10回(20単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒			
担当講師 実務経歴				
授業概要				
管楽器の修理と販売で必要になる管楽器知識の基礎的内容について、動画配信によるオンライン授業形式で学ぶ。				
到達目標				
管楽器に関する基礎的な知識の修得。				

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	音の呼び名と表記: 代表的な音名と表記法、幹音、派生音 音名と階名: 音名と階名の違い、使い分け 調の呼び名と表記: 代表的な調の呼び名と表記法 楽器の調性と移調楽器: 実音と記譜音の理解 楽器の分類: 管楽器、その他の楽器の分類法、発音体の理解 音程を変化させる仕組み: 自然倍音列、開管振動、閉管振動、有効管長の理解
【前期】 3～4回目	金属素材: 楽器に使われる金属素材の理解 木材・天然素材: 楽器に使われる木材、天然素材の理解 樹脂素材: 楽器に使われる樹脂素材の理解 接着剤: 楽器製造、修理に使われる接着剤の理解
【前期】 5～6回目	管楽器史: 管楽器の起源、変化、現在に至るまでの歴史
【前期】 7～8回目	楽器各部名称、楽器の取り扱い方法
【前期】 9～10回目	管楽器の構造: 構造の概念、ボア形状、キムカニズム、バルブ、各種パーツなどの理解
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	常に対象の楽器をイメージすることと、他楽器での応用までを考えて取り組むことが大切。楽器店やWeb、書籍や博物館など身の回りにある楽器に触れる、知識を得る機会を逃さずキャッチする取り組みも推奨する。
使用教科書	「カラー図鑑 楽器の歴史」河出書房新社、講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	木管楽器修理概論Ⅰ	授業形態／必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	15回(30単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☐	非該当 ☒	
担当講師 実務経歴					
授業概要					
楽器ごと、修理内容ごとの点検法、メンテナンス法、修理手順、重点ポイントを、動画配信によるオンライン授業形式で学ぶ。					
到達目標					
木管楽器修理の方法論、構造と対処法の理解、及びどんな状況でも修理対応ができる基礎力の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	フルート/クラリネット 取扱い、分解組立、掃除、オイルアップ
【前期】 4～5回目	フルート/クラリネット タンポ調整
【前期】 6回目	キョコルク交換
【前期】 7～8回目	サククス 取扱い、分解組立、掃除、オイルアップ、タンポ交換
【前期】 9回目	クラリネットジョイントコルク交換
【前期】 10回目	フルート タンポ調整応用
【後期】 1回目	木管楽器 連動
【後期】 2～3回目	フルート 連動調整
【後期】 4～5回目	クラリネット 連動調整
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	常にその楽器をイメージすることと、他楽器での応用までを考えて取り組むこと。修理が必要な楽器の状態はさまざま、短時間で判断して作業工程を組み立てる必要があるため、管楽器リペア実習とともに繰り返し考察することが大切である。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	金管楽器修理概論Ⅰ	授業形態／必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(16単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☐	非該当 ☒	
担当講師 実務経歴					
授業概要					
楽器ごと、修理内容ごとの点検法、メンテナンス法、修理手順、重点ポイントを、動画配信によるオンライン授業形式で学ぶ。					
到達目標					
金管楽器修理の方法論、構造と対処法の理解、及びどんな状況でも修理対応ができる基礎力の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	トランペット/トロンボーン/ホルン 取扱い、掃除、メンテナンス
【前期】 3～4回目	トロンボーン スライド掃除、調整、スライド停止帯フェルト交換
【前期】 5～6回目	ホルン ロータリーバルブ分解組立、紐交換
【前期】 7回目	ハンダ付け
【後期】 1回目	トランペット ピストンバルブ調整、拔差管調整
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	常にその楽器をイメージすることと、他楽器での応用までを考えて取り組むこと。修理が必要な楽器の状態はさまざま、短時間で判断して作業工程を組み立てる必要があるため、管楽器リペア実習とともに繰り返し考察することが大切である。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	基礎工学概論	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	15回(30単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☐	非該当 ☒	
担当講師 実務経歴					
授業概要					
作業内容ごとに工具の扱い方、金属加工の作業方法、手順、重点ポイント、応用法を動画配信によるオンライン授業形式で学ぶ。					
到達目標					
金属加工の方法論や、材質の特性などの理解および楽器修理や製造に必要な技術の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	工具解説(種類・用途)
【前期】 3～4回目	切断: 材料の形状による切断方法、ノコなど工具の使用方法 切削: 切削手順と検査方法、ヤスリなど工具の使用方法
【前期】 5～6回目	楽器用工具の製作方法
【前期】 7～8回目	ケガキ: 金属材料への作図方法、スケールなど工具の使用方法
【前期】 9回目	作品製作方法
【前期】 10回目	穴あけ: 工具の使用方法、ボール盤作業方法
【前期】 11回目	ロウ接(ハンダ・銀ロウ): 溶接理論、バーナーなど工具の使用方法
【後期】 1回目	ネジ製作: ネジの構造、タップの使用方法、ダイスの使用方法
【後期】 2回目	作品製作方法
【後期】 3～4回目	彫金基礎
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	実際の作業イメージをしっかりとって取り組むこと。そのためには、楽器の構造、パーツ、材質なども理解しておく必要がある。楽器のカスタマイズやパーツ製作に必要な知識にもなる。
使用教科書	講義ごとにテキスト配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器商品知識Ⅰ	授業形態／必・選	講義	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	15回(30単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース、ピアノ／管楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
フルート・クラリネット・サックス・トランペット・アクセサリーの楽器・製品説明を、動画配信によるオンライン授業形式で学ぶ。					
到達目標					
楽器の特徴・メカニズム・システムから、メーカーごとの特徴や売りなど、販売・修理知識の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	フルート概要・製品解説
【前期】 4～6回目	クラリネット概要・製品解説
【後期】 1～4回目	サックス概要・製品解説
【後期】 5～7回目	トランペット概要・製品解説
【後期】 8回目	マウスピース概要・製品解説
【後期】 9回目	リード概要・製品解説 リガチャー概要・製品解説
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	異なる楽器でもその特徴などは類似する点が多いので、常に関連付けて考えられるように取り組むこと。講義だけでは活きた情報にはならないので、自ら楽器店などでその製品の特長などを観察・試奏することも重要になる。
使用教科書	「管楽器価格一覧表」ミュージックトレード社、「カラー図鑑 楽器の歴史」河出書房新社、各メーカーカタログ、資料配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	木管楽器リペア I	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	217回(434単位時間)	年間単位数	14単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
基礎的な作業の反復練習が中心。指定課題を指定期限内に提出することで、現場での納期と作業計画をシミュレーションさせる。					
到達目標					
フルート・クラリネット・サックスの修理方法の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～98回目 【後期】 1～119回目	フルート: 分解組立・掃除・オイルアップ タンポ交換調整・バランス調整 (79回)
	クラリネット: 分解組立・掃除・オイルアップ タンポ交換調整・キョコルク交換・バランス調整 ジョイントコルク交換 (110回)
	サックス: 分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整 (28回)
備考	楽器ごとの実習班に分かれた作業のため、履修楽器が順番に代わる。また、各楽器の基礎奏法の履修も含む。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。単に課題を終わらせるのではなく、実際の業務をイメージしてより正確に、早く作業を進めることをめざし、自ら進んで考えることで応用力を養うことは大切である。
使用教科書	木管楽器修理概論 I、金管楽器修理概論 I と同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	金管楽器リペア I	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	98回(196単位時間)	年間単位数	6単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				
	該当 ☐ 非該当 ☒				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
基礎的な作業の反復練習が中心。指定課題を指定期限内に提出することで、現場での納期と作業計画をシミュレーションさせる。					
到達目標					
トランペット・トロンボーン・ホルンの修理方法の修得、及び金属加工技術の修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～50回目 【後期】 1～48回目	トランペット: 掃除・オイルアップ・ピストンバルブ調整 ハンダ付け (24回)
	トロンボーン: スライド掃除・オイルアップ・停止帯フェルト交換 (4回)
	ホルン: ロータリーバルブ分解組立・掃除・オイルアップ ロータリーバルブ調整・紐交換 (18回)
	金属加工: 工具取り扱い・ドライバー加工・バネ掛け製作・タンポヘラ製作 作品製作(作図、切断、切削、溶接などを含む)(52回)
備考	楽器ごとの実習班に分かれた作業のため、履修楽器が順番に代わる。また、トランペットの基礎奏法の履修も含む。
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。単に課題を終わらせるのではなく、実際の業務をイメージしてより正確に、早く作業を進めることをめざし、自ら進んで考えることで応用力を養うことは大切である。
使用教科書	木管楽器修理概論 I、金管楽器修理概論 I、基礎工学概論と同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	管楽器業界演習 I	授業形態 / 必・選	演習	必修
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	5回(20単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒			
担当講師 実務経歴				
授業概要				
管楽器業界の概要説明、企業による製品、技術セミナーや仕事の話、リクルートセミナー、販売演習を行う。				
到達目標				
管楽器業界の仕組みを知り、就職活動や就職後に実践できる知識を修得する。				

授業計画・内容	
【前期】 1回目	管楽器業界の説明／製造／卸／販売営業／リペア
【前期】 2回目	就職講座とマナー実技
【前期】 3回目	管楽器業界の企業による仕事解説、製品、技術セミナー
【後期】 1回目	管楽器業界の企業による仕事解説、製品、技術セミナー
【後期】 2回目	販売講座、販売シミュレーション
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	実際に仕事を経験することで、進路に対しての興味を持ち積極的な行動ができるよう努めること。
使用教科書	適宜資料配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択前期ウインドアンサンブルⅠ	授業形態／必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	18回(36単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				
	該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 35年 アンサンブルなどのメンバーとして活動のほか、大学や高校の講師としても活動。				
授業概要					
吹奏楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～18回目	・楽器演奏基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択前期木管室内楽Ⅰ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	18回(36単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 19年 ライブやコンサート出演のほか、劇伴、CM、ドラマ、アルバムレコーディング、コンサートサポートなどに参加。				
授業概要					
木管楽器室内楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～18回目	・楽器演奏基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択前期金管室内楽Ⅰ		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	18回(36単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経験 21年 ライブサポート、レコーディング、パーティ、テーマパーク、学校公演などさまざまな現場で活動中。				
授業概要					
金管楽器室内楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～18回目	・楽器演奏基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択前期ビッグバンドアンサンブルⅠ	授業形態 / 必・選	実習	選択
		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	18回(36単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経験 19年 学生時代より、ライブやTVでの仕事を始める。2006年メジャーデビュー。その後、アンサンブルやジャズ奏法のレッスンにも力を入れる。現在、トラック制作や、ナレーションの仕事にも携わっている。			
授業概要				
ビッグバンド楽曲の合奏。				
到達目標				
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。				

授業計画・内容	
【前期】 1～18回目	・楽器演奏基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択前期管楽器リペア I	授業形態 / 必・選	実習	選択
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	18回(36単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒			
担当講師 実務経歴				
授業概要				
管楽器リペアの内容は原則として木管楽器リペア実習 I、及び金管楽器リペア実習 I に準ずる。				
到達目標				
管楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。				

授業計画・内容	
【前期】 1～18回目	フルート: 分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整・バランス調整 クラリネット: 分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整・キョコルク交換・バランス調整・ジョイントコルク交換 サクソ: 分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整 トランペット: 掃除・オイルアップ・ハンダ付け トロンボーン: スライド掃除・オイルアップ・停止帯フェルト交換 ホルン: ロータリー分解組立・掃除・オイルアップ・紐交換
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	木管楽器リペア実習 I、金管楽器リペア実習 I と連動した授業のため、その履修時期により楽器ごとの実習班に分かれる。繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。
使用教科書	木管楽器修理概論 I、金管楽器修理概論 I と同様

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択後期ウインドアンサンブルⅠ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	22回(44単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 35年 アンサンブルなどのメンバーとして活動のほか、大学や高校の講師としても活動。				
授業概要					
吹奏楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～22回目	・楽器演奏基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択後期末管室内楽Ⅰ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	22回(44単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 19年 ライブやコンサート出演のほか、劇伴、CM、ドラマ、アルバムレコーディング、コンサートサポートなどに参加。				
授業概要					
木管楽器室内楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～22回目	・楽器演奏基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択後期金管室内楽Ⅰ		授業形態 / 必・選	実習	選択
			年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	22回(44単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐				
担当講師 実務経歴	実務経験 21年 ライブサポート、レコーディング、パーティ、テーマパーク、学校公演などさまざまな現場で活動中。				
授業概要					
金管楽器室内楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～22回目	・楽器演奏基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択後期ビッグバンドアンサンブルⅠ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	22回(44単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目				
担当講師 実務経歴	実務経験 19年 学生時代より、ライブやTVでの仕事を始める。2006年メジャーデビュー。その後、アンサンブルやジャズ奏法のレッスンにも力を入れる。現在、トラック制作や、ナレーションの仕事にも携わっている。				
授業概要					
ビッグバンド楽曲の合奏。					
到達目標					
音色やリズムの作り方、音楽の組み立て方の研究、楽器の演奏技術向上。					

授業計画・内容	
【前期】 1～22回目	・楽器演奏基礎向上(メロディー、ハーモニー、スケール) ・楽曲を決め、アンサンブルの練習 ・音程やリズムの練習 ・楽曲にあった音色の作り方の練習 ・演奏発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	1年、2年の合同授業。合奏が授業の中心になるため、協調性を持って取り組み、欠席しないように努力すること。決まった楽曲は合奏までに個人練習をすること。
使用教科書	ティップス、3D、別紙譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択後期管楽器リペア I	授業形態 / 必・選	実習	選択
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	22回(44単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	管楽器リペアコース、管楽器／打楽器コース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☐ 非該当 ☒			
担当講師 実務経歴				
授業概要				
管楽器リペアの内容は原則として木管楽器リペア実習 I、及び金管楽器リペア実習 I に準ずる。				
到達目標				
管楽器修理各作業の方法・意味の理解、作業の精度・速度の向上。				

授業計画・内容	
【前期】 1～22回目	フルート: 分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整・バランス調整 クラリネット: 分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整・キョコルク交換・バランス調整・ジョイントコルク交換 サクソ: 分解組立・掃除・オイルアップ・タンポ交換調整 トランペット: 掃除・オイルアップ・ハンダ付け トロンボーン: スライド掃除・オイルアップ・停止帯フェルト交換 ホルン: ロータリー分解組立・掃除・オイルアップ・紐交換
評価方法	学期末の課題提出の仕上がり状況と修理過程を加味した技術点評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	木管楽器リペア実習 I、金管楽器リペア実習 I と連動した授業のため、その履修時期により楽器ごとの実習班に分かれる。繰り返し作業をするが、故障の状況に応じた課題以外の修理を行う場合もある。
使用教科書	木管楽器修理概論 I、金管楽器修理概論 I と同様